



からしだねの由来 マタイ 13 章 31 節、マルコ 4 章 30 節、ルカ 13 章 18 節

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南 1 丁目 35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第 446 号

刑務所での奉仕と聖なる扉

ロザイロ・ブラッドリー 神父

ローマの 4 つの主要大聖堂にある聖なる扉は、サン・ピエトロ大聖堂、サン・ジョバンニ・イン・ラテラーノ大聖堂、サンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂、サン・パオロ・フオーリ・レ・ムーラ大聖堂です。フランシスコ教皇は、今年のクリスマス・イブにサン・ピエトロ大聖堂の最初の聖なる扉を開き、希望の聖年を開始しました。そして、12 月 29 日サン・ジョバンニ・イン・ラテラーノ大聖堂の聖なる扉を開きました。また、教皇は、今年 1 月 1 日と 1 月 5 日にそれぞれサンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂とサン・パオロ・フオーリ・レ・ムーラ大聖堂の聖なる扉を開きました。

さて、皆さんは「刑務所での聖なる扉」について聞いたことがありますか？ 昨年のクリスマスの翌日、長年の聖年の伝統の中で初めてローマの刑務所の礼拝堂の聖なる扉がフランシスコ教皇によって開かれました。これは「すべての受刑者に希望と新たな自信をもって未来に目を向けるよう呼びかける」象徴的なしるしとして宣言されました。

外の世界から見ると、受刑者は追放者や罪人のように見えるかもしれませんが、彼らは尊厳と思いやりを必要とする神さまの子どもです。私は、2 つの刑務所で 12 年近く受刑者への奉仕に携わった時に、このことに気付きました。教室で初めて受刑者に出会った時のことは忘れられません。彼らとのアイコンタクトを通して、刑務所の厳しさや愛情不足を感じました。刑務所に慣れていない見ず知らずの私は、彼ら以上に緊張しました。しかし、彼らの悲しい顔に慣れるのにそれほど時間はかかりませんでした。私が教えたこと以外にも、月に 1 回、少なくとも 1 時間は彼らを笑顔にし、少しリラックスできる雰囲気を作ることができたように思います。

受刑者のために 1 時間の話を準備するのは難しいと思います。なぜなら、彼

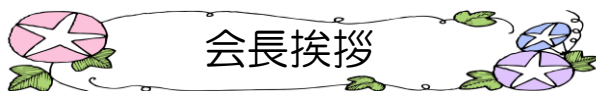
会長挨拶・教会学校のページ・・・	3 面
幼稚園から・・・・・・・・・・・・・	4 面
アベイヤ司教 公式訪問・・・・・・・・	5 面
小教区委員会報告・・・・・・・・・・	6・7 面
お知らせ・今月の聖人・・・・・・・・	8 面

らが何を聴きたいのか分からないからです。毎回テーマを見つけるのは大変でした。時には、彼らが興味を持ったことを紙に書かせ、話の準備に役立てました。また、話の最後に時々交流の場を設けると、何人かが一番感動したことや私に聞きたいことを話してくれました。

受刑者と分かち合ったことを振り返ってみると、私のメッセージのほとんどは希望と愛と赦しについてでした。聖書やビデオに基づいたいくつかの物語を通して、私たちは皆罪人であり、いつでもやり直すチャンスと明日への希望があることを伝えようとしていました。また、フランシスコ教皇が受刑者に宛てた手紙や、特に聖木曜日に、性別、国籍、宗教を超えて受刑者の足を洗う行為を通して愛と憐れみを示す教皇の気持ちを紹介したこともありました。

過去に刑務所のチャプレンだった私は、ローマの刑務所の礼拝堂に5つ目の聖なる扉があることを知り、嬉しかったです。刑務所には大きくて重い扉があり、常に施錠されているが、聖なる扉は「最も凶悪な罪を犯した者にも」常に開かれたままであります。受刑者が聖なる扉を見るたびに、神の憐れみと贖罪を思い出すことを願っています。そして、このシンボルが彼らにより良い未来への希望を与えてくれることを祈ります。





みなさん、こんにちは。

このたび、小教区委員長を務めさせていただくことになりました折尾高須青葉地区の傍士貴子です。

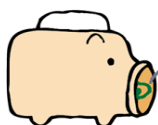
最初にこのお話をいただいたときは、「とんでもない!」という気持ちしかありませんでした。今もその気持ちはあまり変わっていませんが(笑)委員長としての1ヶ月を過ごす中で、皆さんからの「頑張ってね」「何かあったら手伝うよ」という声にたくさん支えられています。

そんなふうに声をかけてくださる、みなさんの温かさと優しさに、心から感謝しています。その愛に少しでも応えられるよう、私なりに精一杯やっていきたいと思っています。

まだまだわからないことばかりで戸惑う毎日ですが、上川前委員長から受け取った“良いバトン”をしっかりと握って、私も誰かに“良いバトン”を渡せるように頑張っていきます。

こんな私ですが、これからどうぞよろしくお願いいたします。

みなさんと一緒に、楽しくあたたかい教会づくりができれば嬉しいです。



教会学校のページ

8月11日(月)の平和の集いに向けて、出品する作品を作りました。





水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 8月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

〈水巻聖母幼稚園〉



7月は水遊びをしました。気温が高く、少しの時間でしたが子どもたちはとても楽しそうにシャボン玉や水鉄砲で遊んでいました。11日(金)にA組お楽しみ会を行いました。じゃがいもや人参を丁寧に切り、「おいしくな〜れ!」と言いながらカレーを混ぜたり、フルーチェを作ったりしていました。

子どもたちは完成したカレーを見て「美味しそう!」と目を輝かせていました。お友達と協力して作ったカレーをみんなで輪になって美味しく食べました。



TEL : 093 201 9559

e-mail : coutactus@mizumakiseibo.ed.jp

〈マリア子どもの家〉



7日(金)に、『七夕祭り』をしました。三角つなぎや星飾りを作り、ご家庭で短冊に願い事を書いていただき、笹に結びました。みんなで歌った「笹の葉サ〜ラサウ」の歌声がお空まで届いたでしょうか。「大きな怪我や病気をせず元気で過ごせますように。」「おいしいご飯がいっぱい食べられますように。」等の、一人ひとりの願いが叶いますように!

お部屋でクッキングの活動をしています。輪切りにしたリンゴに、リンゴスライサーをあててギュッと押して切って、 Tongue で蒸し器にのせて蒸して食べたり、いりこやゴマをすって、ご家庭の料理で使ってもらったりしています。他には、パンの生地を混ぜてこねて、トースターで焼いておやつ時間に食べています。焼きたてのパンは、ふわふわして美味しくて、こども達に大人気です!



TEL : 050 5212 7759

[https : www.mariahouseofchildren.jp](https://www.mariahouseofchildren.jp)

水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家

園長 水口 由美

教職員 一同

アバイヤ司教様 公式訪問

7月20日 第16主日 ルカによる福音
マルタとマリアの比較ではなく、大切なことはイエス様の御言葉に聞き従うことです。

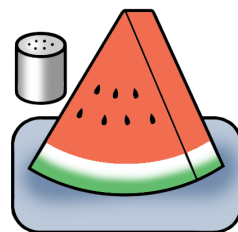
ミサ後の司教の報告→2027年7月16日に迎える福岡教区100周年記念に向けて、昨年取り組んできた「互いに支え合う交わりの教会となる」の目標が「共に歩む」喜びをより深く味わうことができたのか、どのように達成されたのか、達成されていないのはどんな理由によるものか、出来なかったことは今後どうすればできるのかを一人一人が考えて二年目のテーマに取り組む前に振り返る必要があります。

二年目のテーマ「未来に開かれた教会となる」は、教会の未来を築いていく大きな役割を果たすはずの青少年の司牧と外国から来られた信徒との繋がりを深めることを目指しています。このテーマはどの共同体にとっても重要な課題です。その取り組みを活性化するための良い機会になるように各共同体の活動と、信徒の日々の暮らしの中で実践していくことが大切です。

100周年記念日は2027年7月4日に教区全体の合同ミサを福岡マリンメッセで行うことを予定しています。恵み豊かな二年目になりますように祈りましょう。



その後、信徒会館にて司教を囲み、茶話会が行われました。久しぶりのご訪問に信徒は感謝の言葉をかわして、ふれあい会がご用意くださった大きなピザやサンドイッチ、コーヒーゼリー、スイカなどで満足したひと時となりました。



委員会等報告

2025年7月分

7月度小教区委員会 7月6日

1. 行事予定

- ・8月 3日(日) 9時半～ミサ
ミサ後～小教区委員会
- ・8月 6日～15日 平和旬間
- ・8月 9日(土) 聖書講座 小倉教会
10時～
- ・8月 10日(日) 平和祈願ミサ(各小教区)
- ・8月 11日(月) 平和の集い 大名町教会
10時～講演会(ライブ配信未定)
15時～平和祈願インターナショナルミサ 16時閉会
- ・8月 15日(金) <聖母の被昇天>
9時半～ミサ
- ・8月 17日(日) 9時半～ミサ
ベトナム語ミサ 18時～
- ・8月 24日(日) 9時半～ミサ
ミサ後～こころの会
- ・9月 7日(日) 9時半～ミサ
二野宮 賀子ミニコンサート(予定)、
小教区委員会は休み

2. 議題

(1)各専門委員会および代表委員(営繕、納骨堂、冠婚葬祭)、北九州地区宣教司牧評議員より

①広報委員会

・からしだねの部数不足の時があったので、
今後は10部増やし総数135部とする。

②典礼委員会

・冷房の利き方が場所によって異なるので、
座る場所を変える、上着を羽織るなど、各自

での対応をお願いする。

・エアコンの調整は都度、こまめに対応して
いくよう気を付ける。

③総務委員会

・特になし

④財務委員会

・特になし

⑤営繕の部

・ミサのライブ配信設備設置の業者見積価格は33万円だったが、一度にすべての設備を揃えるより、図書室のテレビを活用するなど、いろいろ試しながら少しずつ設備を拡充していくこととする。営繕の部で設備していくことを承認した。

・各家庭で、使っていないビデオカメラをお持ちの方に、貸し出しをお願いしたい。

⑥納骨堂管理の部

・6月29日に納骨堂利用者集会を開催した。納骨堂管理の引継ぎが今後の課題。

⑦冠婚葬祭の部

・特になし

⑧北九州地区宣教司牧評議会

・活動にあたっては、交通費、教会(会議室)使用料などの費用が生じる。現在は北九州地区信徒使徒職協議会の活動費を引き継ぎ、取り崩しながら対応してきている。今後のために、各小教区にて150円×在籍人員の費用を負担することとなった。

・水巻教会の分担金 在籍709名×150円=106,350円 2025年度は9月末

支払。 来年度以降 4 月末支払。

(2) 地区集会報告

各地区委員より地区集会での意見、要望の報告がなされた。

- 地区集会の提案を受けて、下記決定した。
- ・巡礼旅行は実施する方向で検討する。現時点での候補日としては 11 月 3 日(月)あるいは 11 月 24 日(月)があげられる。聖年の意味など、事前に理解を深める説明会の開催、巡礼後のわかちあいなども合わせて計画していく。バスを手配する必要があるので、人数を早めに把握しておくようにする。
- ・8 月 10 日(日)の平和祈願ミサでは、各人の祈りを書いた折紙を折り鶴にして、当日、子どもたちが奉納する。
- ・平和についてのわかちあいのため、10 分程度の映像を準備してはどうか。
- ・奉納、掃除の順番を以下のように変更する。

第1週 芦屋・遠賀地区

第2週 梅の木・吉田・中間地区

第3週 折尾・高須青葉地区

第4週 赤間・海老津地区

第5週 全員

- ・葬儀マニュアルについては、典礼委員会で検討していく。

(3) その他

- ①7 月 20 日 アベイヤ司教様訪問日
 - ・茶話会形式とする。ふれあい会に準備をお願いする。
- ②小教区委員会の開催頻度について
 - ・毎月開催する必要はないと考える。必要に応じて開催することとする。

③AED の購入を検討する。使用方法の訓練も必要になる。

④台風時にベンチを神父様が屋内に入れてくださっていた。今後の対応につき検討していく必要がある。

⑤園庭の工事中は、サールナートの駐車場を利用することで了解いただいた。利用者や停め方についてのルールづくりが必要。

⑥二野宮 賀子(にのみや よりこ) ミニコンサート

・北九州市出身のソプラノ歌手。聖歌隊の指導も兼ね、ミニコンサートの開催を依頼、調整する。9 月 4 日(日)開催を予定。

⑦掃除をする人が偏っている。掃除前に集まって、人数や分担を確認することを徹底していく。人数が足りない場合は役員に声をかけて下さい。





★聖母の被昇天ミサ★

日 時：8月15日(金)
午前9時30分～

★特別献金★

6月29日 聖ペトロ使徒座への献金
26,589円
ご協力、ありがとうございました。

★新掃除担当割★

各地区の掃除担当割が一部変更になりました。新しい担当割を以下の通りです。

- 第1週 芦屋・遠賀地区
- 第2週 梅ノ木・吉田・中間地区
- 第3週 折尾・高須青葉地区
- 第4週 赤間・海老津地区
- 第5週 全地区

★お盆時期の納骨堂解放について★

8月14日(木) 午前9時～12時

8月15日(金) ミサ終了後～12時

※なお、13日(水)は解放しませんので、来られる方はご注意ください。



今月の聖人 29日

洗礼者ヨハネの殉教

祭司ザカリヤとエリザベトの間に生まれたヨハネは、ユダの荒れ野で預言者として活躍し、人びとに神の国の到来と悔い改めを説きました。ヨルダン川で、人びととともにイエスにも洗礼を受けました。当時、ヘロデ・アンティパスがこの地方を治めていましたが、彼は弟の妻ヘロディアを自分の妻とするなど、非難されるべき生活をし、ヨハネから戒められていました。あるとき、ヘロデの誕生日の宴席で、踊りを披露したヘロディアの娘サロメに、ヘロデはほうびとして望むものは何でも与えることを約束しました。ヨハネを憎んでいたヘロディアは、娘にヨハネの首を望ませました。ヘロデは、人びとが信頼しているヨハネを殺すことに心を痛めましたが、公の場で誓った約束であったため、ヨハネの首を斬らせました。



ヨハネは、キリストに先立つ預言者としての使命を、生涯果たしたのでした。